

第2回 徳島県広域道路ネットワークに関する検討委員会

日時：令和3年2月10日（水） 14:00～

場所：徳島県庁11階 講堂

～ 議 事 概 要 ～

■議事（１）国の新たな広域道路交通ビジョン・計画策定方針について （事務局）

【資料１】により説明

※質疑無し

■議事（２）徳島県新広域道路交通ビジョン（素案）について （事務局）

【資料２】により説明

（奥嶋委員長）

第1回検討委員会での主な意見に対して、ビジョン素案では具体的にどのように反映しているのでしょうか。

（事務局）

高速道路等の項目については、ミッシングリンクの解消などの取組をこれまでも進めており、早期整備の必要性をビジョン素案に記載しております。観光面については、ビジョン素案に方向性を記載するとともに、観光・交流拠点を設定するなど、計画策定においても反映していくこととしております。高速道路の隊列走行については、国全体の方向性として国の計画において示されると考えております。

道路の機能強化の項目における中山間地域の取組については、対向車接近支援システムその他、観光案内標識の取組などを記載しております。

拠点の項目については、道の駅の防災機能の強化などを記載しております。

その他の項目の計画目標の達成状況については、県の最上位計画である行動計画の中で、点検することとしております。

（小笠委員）

自動運転の方針は示されていますが、電気自動車の普及に向けた施設整備などの計画はあるのでしょうか。

（事務局）

自動運転については、三好市で実施した実証実験をもとに、導入促進に取り組んで行きたいと考えております。電気自動車に対する対応としましては、道の駅の交通拠点化の取組などにより、EV充電施設の充実を図って行きたいと考えております。

■議事（３）徳島県新広域道路交通計画の策定方針について

（奥嶋委員長）

新広域道路交通計画はビジョンに基づいて策定するものでしょうか。

（事務局）

計画はビジョンに基づき、設定した拠点を結ぶ道路でネットワークを形成していくものであり、それらを示した計画図を策定していくこととなります。

（金井委員）

ビジョン・計画において、「いたの」や「なると」などの道の駅が防災拠点として整備が進められていくことには賛成であり、さらに道の駅版のＢＣＰを定め、発災時に機能を継続させるための計画や方針、復旧・業務再開に要する目標時間の設定も重要と考えています。さらに道の駅同士の連携による相乗効果も図るとともに、周辺の交通状況などの情報発信基地としての役割も記載していくとよいのではないのでしょうか。

（湯浅委員）

東日本大震災の経験から、災害時の防災拠点には、給油がどこでできるかなど必要な情報を入手できるよう、情報インフラの強靱化も必要と思います。

（事務局）

資料に記載の道の駅については、非常用電源や防災トイレなど、防災機能を有するものを記載しており、中でも、道の駅「いたの」では、ＢＣＰの策定や通信設備の充実などにより機能を向上させ、広域的な防災機能を有する施設として整備を進めており、情報発信の重要性についても記載していきたいと考えております。

（日下委員）

計画に記載する拠点は、資料に示されたものがすべてでしょうか。

（事務局）

資料には、物流や防災上重要な拠点などを一例として示しており、今後も、必要に応じて追加も可能と考えております。

■議事（４）今後のスケジュールについて

（事務局）

【資料４】により説明

※質疑無し

■その他

（湯浅委員）

コロナ禍の影響により物流業界も大きな影響を受けており、将来ビジョンが描けない状況にあります。ビジョンの方向性に示されている「安全実感」をこのような状況下でも感じ取れる解決策をもっと示した上で、将来のビジョンを描いた方がよいのではないのでしょうか。

（事務局）

人口減少や災害における課題に加え、現在、直面しているコロナ禍への対応など、特異な状況も盛り込んで、ビジョンを策定させていただきます。（以 上）